

手書き第1問

人工内耳手術の合併症について、ご説明いたします。まず、味覚障害。味覚が低下するかということです。これは出る方のほうが少ないです。通常半年くらいで戻ります。味覚の神経はすごく細いので、障害を受けやすいということがございます。また、味覚の障害は、当然、手術した側です。右の手術をすれば右側に障害が出る可能性があるということです。

顔面神経麻痺。これは顔の動きが弱ってしまうかどうかというものでございますが、これも滅多にはありません。もし、出たとしまして、徐々に改善しまして、麻痺が残るということは、ごく稀です。神経の働き。これもですね、半年ぐらいかかるということが多いです。めまいが出る可能性がございます。だいたい手術した方の1割から3割で、一時的なめまいがおこるということが言われております。特に手術当日にめまいが起こることがございまして、回転性のめまいですね。ぐるぐる回るということが起こることがございます。ただ、たいていの方は入院中によくなってしまいます。まれに退院するときに、まだ少しふらつきが残るという方がいらっしゃいます。その際は、お薬をお出ししたりして経過を見ていきますが、通常は徐々に良くなっていきます。

痛みについてです。大抵の方は、あまり痛くはないようです。これも手術当日に痛みが出る場合がございます。通常は飲み薬の痛み止めで問題ないという方が、たいていですが、痛みの出方というのは、これはですね、人によって違います。どうしても痛いという方には、その度に対応することになります。例えば、座薬を挿すとかですね、今、点滴の痛み止めもございますので、それを投薬することで改善することができます。ただですね、時に、しばらく痛みが続くという方もいます。これはどんな手術でもそうでした、お腹の手術でも腕の手術でもですね、しばらくそこに痛みが残るかたがいらっしゃいます。特に人工内耳の場合は、頭の下の方の皮膚をはがしてということがございますので、痛みがしばらく続く方がいらっしゃいますが、痛みがずう〜と続く方はいらっしゃいません。術後の感染ですね。これは手術によって耳の奥の皮膚を切り、骨を削ったりいたします。特に、中耳という場所は、鼻の奥と通じております。細菌感染が起こる可能性がございます。手術後は抗生物質の点滴や飲み薬を処方するというをおこないますので、そういう感染症が起こるということはほとんどありません。また、発症した場合というのはなかなか厄介でして、耳の後ろが腫れてしまって膿がたまるとかですね、中耳炎を起こすということがございます。その際は的確な処置、必要に応じて中をもう一度切開するとかですね、あとは鼓膜から膿を出すとか、そういうことがございます。もちろん抗生物質の点滴の追加等をいたします。通常それでよくなるということになりますが、これもほとんどございません。

それでは今までお話してきた味覚障害、顔面神経麻痺、めまいがなぜ起こるかということです。これはですね、手術を行う際、まずは耳の後ろを切りまして、それで皮膚をはがしまして、側頭骨、つまり奥の骨ですね、耳の後ろのところの骨を削ります。削っていきまして人工内耳の電極を入れるわけで

すが、そこは蝸牛の入り口、正円窓という場所に穴を開けまして細い電極を挿入します。その挿入する場所がですね、顔面神経、顔を動かす神経と鼓索神経、味覚の神経の間を削って行って、そこから挿入するということになります。この間隙が1.9ミリから3.7ミリと非常に細いところに穴をあけてやりますので、削ったりする際に神経の障害が出る可能性がございます。